

□繪畫及寄書の類其他雜誌『みづゑ』に關する事は、一切春鳥會宛にて御送り下された候

□日本水彩畫會々友の作品及質問等は、一切大下藤次郎氏宛に御送り下されたく候

□本號の口繪は石版に附する筈なりしも、印刷の結果不良につき原色版に致候

□前號募集中繪の寄稿に傑出せしもの少なし、一層御奮勵を望み申候

□一月號の口繪は、大下氏筆甲州日野春より見たる富士の圖を出すべく候

□講話には丸山晚霞氏の松の美觀、挿繪専門家戸張孤雁氏のイラストレーション、大下藤次郎氏の靜物畫の話等重なるものに候

近事雜聞

△長野市に於ける洋畫同好者の組織せる信美會は、其第二回展覽會を十月二十日同市に於て開會、日本水彩畫會幹部の人々の出品もあつて頗る盛會なりしといふ
△小樽にては、十一月三日同じく洋畫展覽會を催したりといふ

△文部省第一回美術展覽會は、十一月三十日閉會したり

△日本水彩畫會研究所は既に六十有余名の研究生を有し、去月二十四日の例會には成績多數出陳せられ、極めて盛會なりし
△太平洋畫會にては十一月十二日二泊がけにて入間川方面に秋季寫生會を催したり

評

◎東京四大通 東京通人著

京橋木挽町 也奈義書房

菊判半載クロース本綴二五〇頁六十五錢
東京案内の一種にして遊覽、食物、買物、旅館等に分ち、何れも精細なる探究を経たるもの、地方人は勿論、東京人にも一本を有する時は至極重寶なるべし。文章明快奇抜にして面白く、小杉未醒氏の約五十頁の挿繪は例の通り奇想天來木文と相俟つて東京の通を穿つと切實なり。

紹介

◎早稻田文學十月號には石井柏亭氏の「肖像畫論」あり同十一月號には林田春潮氏の「現今の日本畫」島村抱月氏の「ドイツ近代

の銅像彫刻」あり◎文庫第三十五卷第四號には小島烏水氏の「秋の自然美觀」あり◎中學世界十一月號には青木繁氏の「グワツシの話」あり◎日本美術十月號には三好梧一氏の「建築美について」あり十一月號には紀淑雄氏の「職業としての繪畫」あり

◎十一月二日初號を出せし青年の友は、羽仁吉一、松岡正男兩氏の編輯に成れる質素なる雜誌にして、現代青年の意嚮滔々として物質的方面に趣くを慨し、金錢上の富の成功以外、人間としての事業あるとを熱心に鼓吹せり。吾人が水彩畫の趣味を普及せしめんとするも、又此意に外ならず。吾人は爰に本誌の發行を祝し、同時に『みづゑ』讀者に向つて本誌を愛讀せられんとを勸む（毎月一回、六錢、小石川小日向台町三丁目愛友社發行）

◎演藝は新に生れたる好雜誌にして廣く藝界一般に涉り材料極めて豊富なり、但挿入のコマ繪は感服せず（毎月十五日發行、十八錢、日本橋通四丁目斯文堂書房）